

- 1 派遣期日 平成27年11月6日(金)
- 2 研修先 学校名 入間市立東町小学校・入間市立東町中学校(施設隣接型)
所在地 東町小学校…埼玉県入間市向陽台2-1009-3
東町中学校…埼玉県入間市向陽台2-1-22

3 研修内容

主体的に学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成
～9年間の学びと育ちの連続性を通して～

(1) 研修選定の理由

入間市では、学校力を高め、子どもたち一人一人に豊かな人間性を育むため、小中一貫教育を推進している。各小・中学校においては、目指す子ども像の実現に向け、教員の相互乗り入れ授業、合同研修会、児童・生徒の交流など、中学校区の特徴を生かした様々な取り組みが行われている。そこで、本校の小中一貫教育の充実を図るため、よりよい教育実践の提案ができるように研修を行った。

(2) 実践事例

東町小中学校では、目指す児童・生徒像を「自信と志を持って卒業できる子ども」と掲げ、「確かな学力の向上とよりよい人間関係作りを通し、児童生徒の豊かな人間性の育成を図る」こと、「9年間の成長を見据え、教育を通して児童生徒への理解を深めるとともに、小中学校の指導の良さを真摯に学び、教員の指導力の向上を図る」ことを研究の指針としている。

①小中一貫学びの手引きの作成～小学校から中学校への円滑な接続を目指して～

- ・重点…5分前行動(1分前着席)や静寂の習慣化(集会・朝読書・清掃)によって、学校が落ち着いていることが基盤
 - ・学力…授業の焦点化・共有化・構造化・視覚化
 - 〈焦点化〉ねらいの明確化→「めあて」の提示 課題の絞り込み
 - 〈共有化〉学習形態の工夫(ペア学習 3～4人班 振り返り)
 - 〈構造化〉めあて 板書計画
 - 〈視覚化〉図やグラフ・表・パワーポイント・ICTの活用
- 「聞き方名人」あいうえお 「話し方名人」はひふへほ 発表のしかた

②授業の乗り入れ指導

- ・乗り入れ授業を時間割に位置づけ、日常的に実施できるようにしている。
- ・小中相互の日課を調整し、乗り入れ授業を行いやすい時間を設定している。
- ・週当たりの授業時間数 中学校→小学校は25時間 小学校→中学校は11時間
- ・小中一貫教育サポーター(非常勤講師)の人材確保→小学校11時間
- ・中学校から小学校への乗り入れ授業教科
国語(1時間)、算数(2時間)、外国語活動(5時間)、音楽(4時間)、図工(6時間)、体育(7時間)
- ・小学校から中学校への乗り入れ授業教科 数学(中1・2)、英語
6学年担任 5学年担任 元6学年担任 教務主任

③合同授業の実施

- ・体育(小5・6) ・音楽(小6) ・総合的な学習(中1と小6)

④児童生徒・教職員の交流

- ・児童会と生徒会との交流 ・朝のあいさつ運動 ・一斉下校 ・花壇の整備
- ・合同茶話会(中1と小6) ・部活動体験(6年) ・合同音楽会(小5・小6と中3)
- ・小学校運動会への吹奏楽部の参加 ・中学校体育祭への6学年の参加
- ・市内体育祭練習への中学校陸上部の支援
- ・小学校夏休みの補充学習への中学生の支援

⑤系統性を意識した授業づくりについて

- ・9年間の指導内容の系統表の作成(指導案に「学習の系統性」として表記)

⑥狭山茶とふれあう教育

- ・茶摘み体験，手揉み茶作り（小学校3年 総合的な学習の時間）
- ・盆点前（中学校1年 総合的な学習の時間） ・合同茶会（小6と中1）
- ・保護者や教育活動ボランティアの支援

(3) 公開授業参観（乗り入れ授業における小中学校教員の役割）

教科の専門性を生かした指導や個別支援が、いろいろな教科において進められていた。

〈東町小学校〉

- ・小4年理科…ものの温度と体積（空気の温度変化と体積の変化の関係）
実験の演示，授業における実験を中心となって進めていた。児童の興味・関心が集中し，意欲的に学習に取り組んでいた。
- ・小5年音楽…日本の音楽を味わおう 教材「赤とんぼ」
歌詞の音読，歌い方の工夫について指導・支援をしていた。
- ・小6年道徳…よりよい校風 資料「せんぱいの心を受けついで」
範読，板書(児童の意見)，意見が言い出せない児童の個別支援を行っていた。
- ・小6年外国語活動…Let's go to Italy（友達を旅行にさそおう）
”I want to ～. “の会話表現をアメリカを例に「自分のしたいこと」を話したり，電子黒板を使ってリスニングアクティビティを行ったりしていた。

〈東町中学校〉

- ・中1年英語…疑問詞 Who is ～？ He is ～. / She is ～. 「～は誰ですか？」
ロールプレイで新出表現の導入を，小中学校の教員が一緒に進めていた。
- ・中2数学(習熟度別少人数)…図形の調べ方「多角形の角」
定着率が低い少人数のクラスに小学校教員が乗り入れ，小学校問題を出題したり，ヒントカードや助言による個別指導を行っていた。
- ・中3保健体育(小6合同)…陸上競技「長距離走」(小学校「体づくり運動」)
中学校教員が中心をなして指導。小学生と中学生が一緒のグループになり，インターバル走や追い越し走を行っていた。
- ・中3音楽(小6合同)…合唱「翼をください」合奏「テキーラ」
中学生が小学生に口の開き方や声の出し方，指使いなどを教え，互いに響きやリズムを感じ取りながら楽しそうに活動していた。

4 感想

小中一貫教育の推進に大切なのは，小中学校の教職員が目指す子どもの姿を明確にとらえ，その学校の特色やよさを生かした取り組みを共通理解と同一歩調で実践していくことであると考えている。小中の教職員は，同じ目標に向かって協働的に取り組む意欲や姿勢をもって，取り組むべき内容や方法を工夫し合ったり，試行錯誤しながら挑戦したりして，児童生徒の学びと育ちを確立していかなければならない。今回の研修では，入間市で取り組んでいる小中一貫教育の方向性や特色を知り，本校における小中一貫教育の在り方を考えることができた。

入間市は，ほとんどが施設分離型で各中学校区ごとに特色を生かした取り組みを行っている。どの学校も，9年間を見通し，豊かな心を育み，確かな学びをつなぐことをねらいとし，小中一貫教育を通して，教職員の資質向上や学校力を高め，その時代に「生きる力」を身に付けさせることを目指している。本校とは児童生徒数や地域環境などかなり違ってはいるものの，小中一貫教育で目指す子どもの姿は共通している。

具体的な取り組みでは，次のようなことに気付くことができた。

- ・入間市は小中学校ともTTの指導形態で乗り入れ授業を進めていた。担任は専門的な教科指導を学ぶことができ，指導力の向上につながる。本校は小学校高学年に一部教科担任制を取り入れて，中学校教員が指導から評価までを行っているが，それぞれの指導者は学習の系統性を理解し，題材や学習活動における評価規準を明確に持って，個に応じたきめ細やかな指導が求められると感じた。
- ・体育や音楽の授業は，中学生が小学生に進んで話しかけ，グループの活動やパート練習をリードし，小中学生が協力し合って主体的に取り組む姿は印象的だった。学級の人数が少ない本校こそ，もっと積極的に合同授業を展開し，多人数で学ぶ楽しさを味わわせたい。
- ・小中児童生徒の交流は，本校でも体育祭や文化祭，音楽会など学校行事を中心に活動を進めている。このため，小学校から中学校への接続は円滑で，中一ギャップの解消につながっている。今後は，児童会と生徒会が前面に立った主体的な活動や小中合同の縦割り班活動などの交流も実施していきたい。

これからも，小規模校のよさを生かした授業や活動，豊かな地域資源を生かした取り組みをさらに工夫し，小中一貫教育の充実に努めていきたい。